

蚕糸業の現状について

一般財団法人 大日本蚕糸会
令和8年3月

1. 養蚕農家数及び繭生産量の推移	〈1〉
2. 養蚕農家の年齢構成と後継者の有無 <small>〈養蚕農家調査(2024年11月実施)の結果より〉</small>	〈2〉
3. 繭の生産費及び提携グループにおける繭の買取価格	〈3〉
4. 養蚕を継続していく上での課題 <small>〈養蚕農家調査(2024年11月実施)の結果より〉</small>	〈4〉
5. 養蚕農家の地域分布及び繭生産量区分別の農家等の戸数割合	〈5〉
6. 製糸業の現状(1)	〈6〉
7. 製糸業の現状(2) <small>〈製糸事業者調査(2024年12月実施)の結果より〉</small>	〈7〉
8. 国内の絹需要の推移	〈8〉
9. 生糸輸入量及び輸入価格の推移	〈9〉
10. 純国産絹マークの活用状況	〈10〉

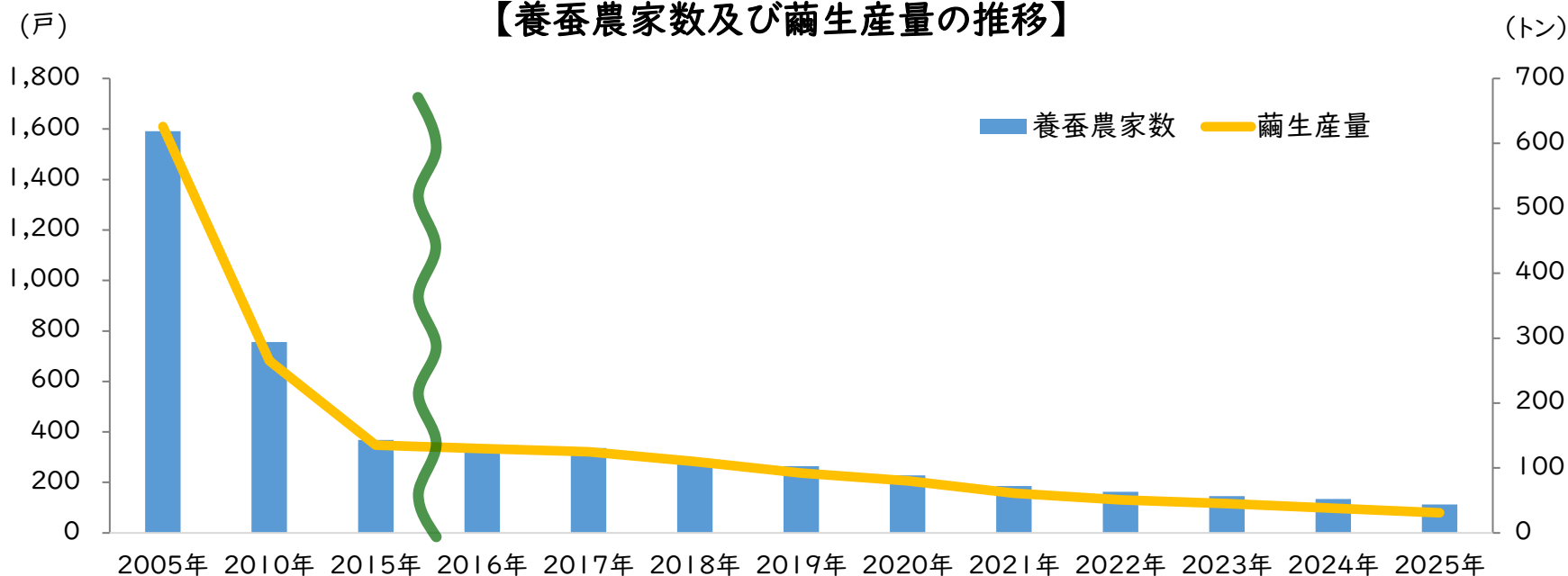
1. 養蚕農家数及び繭生産量の推移

戦後の繭生産のピークは1968年(昭和43年)。それ以降、養蚕農家数、繭生産量の減少が継続。主な減少要因は、国内市場において生活様式の変化等により絹需要が減少したこと、また、中国等の外国産生糸との競争により需要が奪われたこと。

直近(2025年)の養蚕農家数は113戸、繭生産量は31トン(生糸換算約6トン)[※]であり、現在も養蚕農家数、繭生産量の減少に歯止めがかからない状況。

※生糸1kg当たり上繭約5.5kg使用と仮定し換算

【養蚕農家数及び繭生産量の推移】



	2005年	2010年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
養蚕農家数(戸)	1,591	756	368	349	336	293	264	228	186	163	146	134	113
指数(2005年=100)	(100)	(48)	(23)	(22)	(21)	(18)	(17)	(14)	(12)	(10)	(9)	(8)	(7)
繭生産量(トン)	626	265	135	130	125	110	92	80	61	51	45	38	31
指数(2005年=100)	(100)	(42)	(22)	(21)	(20)	(18)	(15)	(13)	(10)	(8)	(7)	(6)	(5)

(注1) 戦後の繭生産量の最大値:121,014トン(1968年)

【出展】(一財)大日本蚕糸会調べ

(注2) 一戸当たり繭生産量は1995年以降300kg台で推移(1995年:392kg/2015年:367kg/2023年:308kg)

2. 養蚕農家の年齢構成と後継者の有無

〈養蚕農家調査(2024年11月実施)の結果より〉

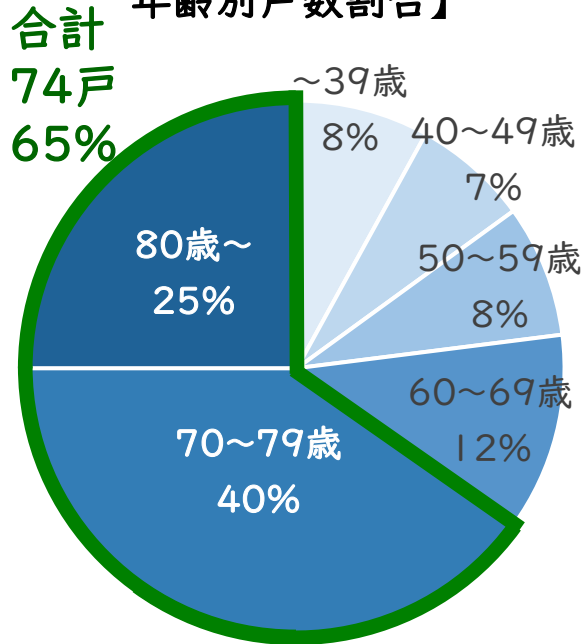
農家の経営主のうち70歳以上が全戸数の65%(74戸)を占める。

繭の総生産量(40,806kg)のうち、約3/4(29,762kg)が70歳以上の農家(47%が70代の農家、26%が80代の農家)によって担われている。

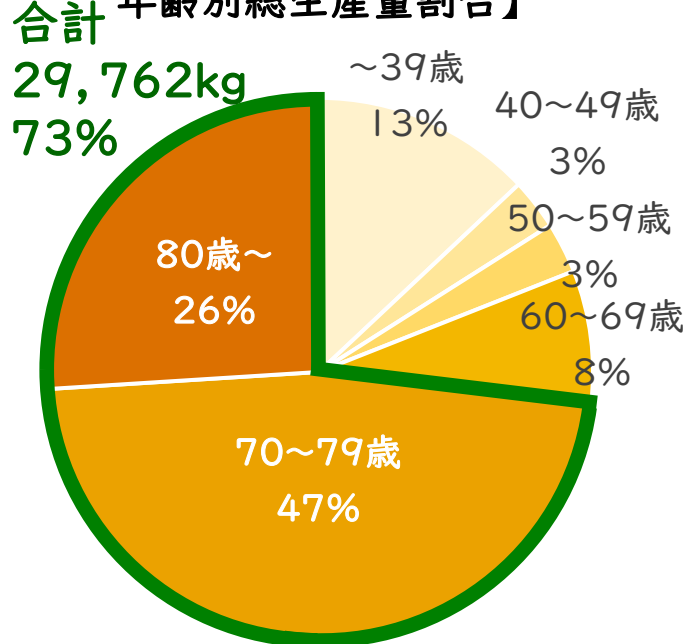
70代の農家の9割、80代の農家の8割は後継者がいない。

※養蚕農家調査(2024年11月実施)の概要：蚕糸・絹業提携グループに所属している養蚕農家等(136経営体)を対象に、経営主の年齢、生産規模、後継者の有無、今後の経営方針等を調査。

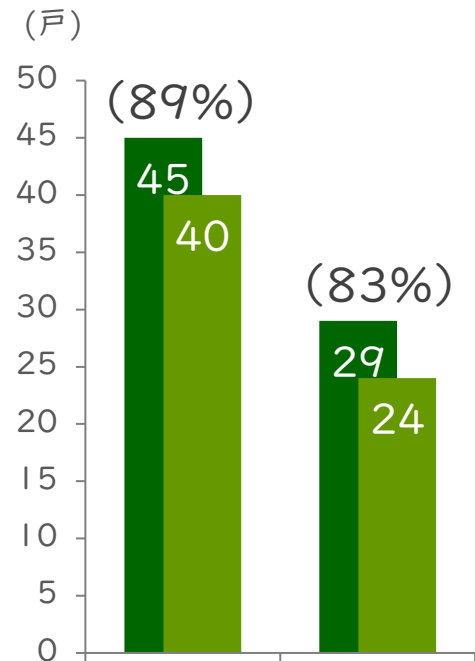
【農家の経営主の
年齢別戸数割合】



【農家の経営主の
年齢別総生産量割合】



【農家の経営主の年齢と
後継者の有無】



(単位：戸、kg)

経営主の年齢	~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳~	合計
戸数	9	8	9	14	45	29	114
総生産量	5,303	1,222	1,350	3,169	19,107	10,655	40,806

70~79歳

■ 全農家

■ 後継者なし

()書きは後継者なし割合 <2>

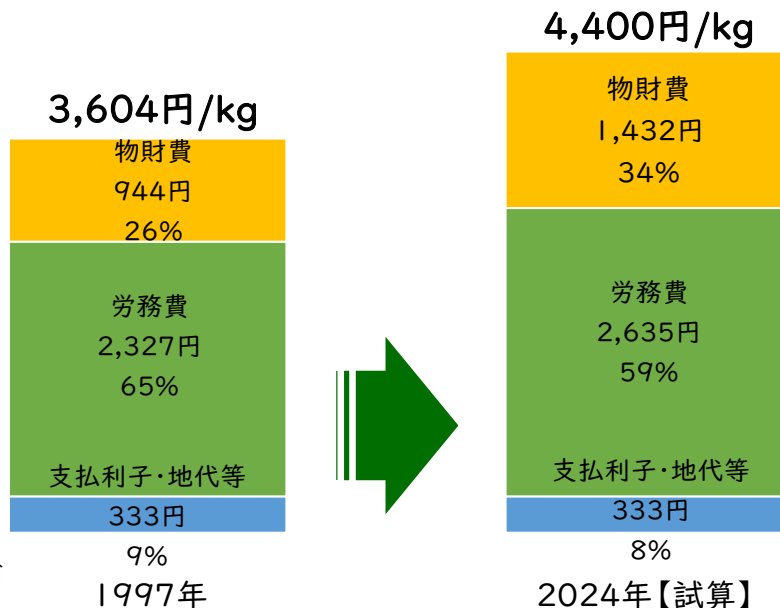
3. 繭の生産費及び提携グループにおける繭の買取価格

養蚕農家における繭の生産費は、農水省が公表した統計数値(1997年)をベースに、その後の物価変動を反映させて試算すると4,400円/kg(2024年)。

他方、提携グループにおける繭買取価格の加重平均は2,665円/kg(2024年)。

養蚕農家の労賃は時給552円。

【上繭1kg当たりの生産費の構成推移】



	1997年 上繭生産費 (円/kg)	物価変動率 1997年→ 2024年	2024年 上繭生産費 推計(円/kg)
物財費	944		1,432
肥料費	167	2.06	344
農業薬剤費	67	1.27	85
光熱水費	63	1.78	112
賃借料	96	1.20	115
桑樹成園費	86	1.00	86
建物費	123	1.58	195
農蚕具費	123	1.36	167
その他	219	1.50	328
労務費	2,327	1.13	2,635
支払利子・地代等	333	1.00	333

【提携グループの繭価格(加重平均)】

2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
2,317	2,396	2,413	2,512	2,487	2,473	2,540	2,543	2,585	2,629	2,665

(単位:円/kg)

【出展】(一財)大日本蚕糸会調べ

- 2024年繭価格(2,665円)－物財費(1,432円)－利子・地代(333円)＝900円(労賃)
- 養蚕農家の労賃 900円/kg÷1.63時間/kg＝552円/時間

上繭100kg当たりの労働時間(時間)

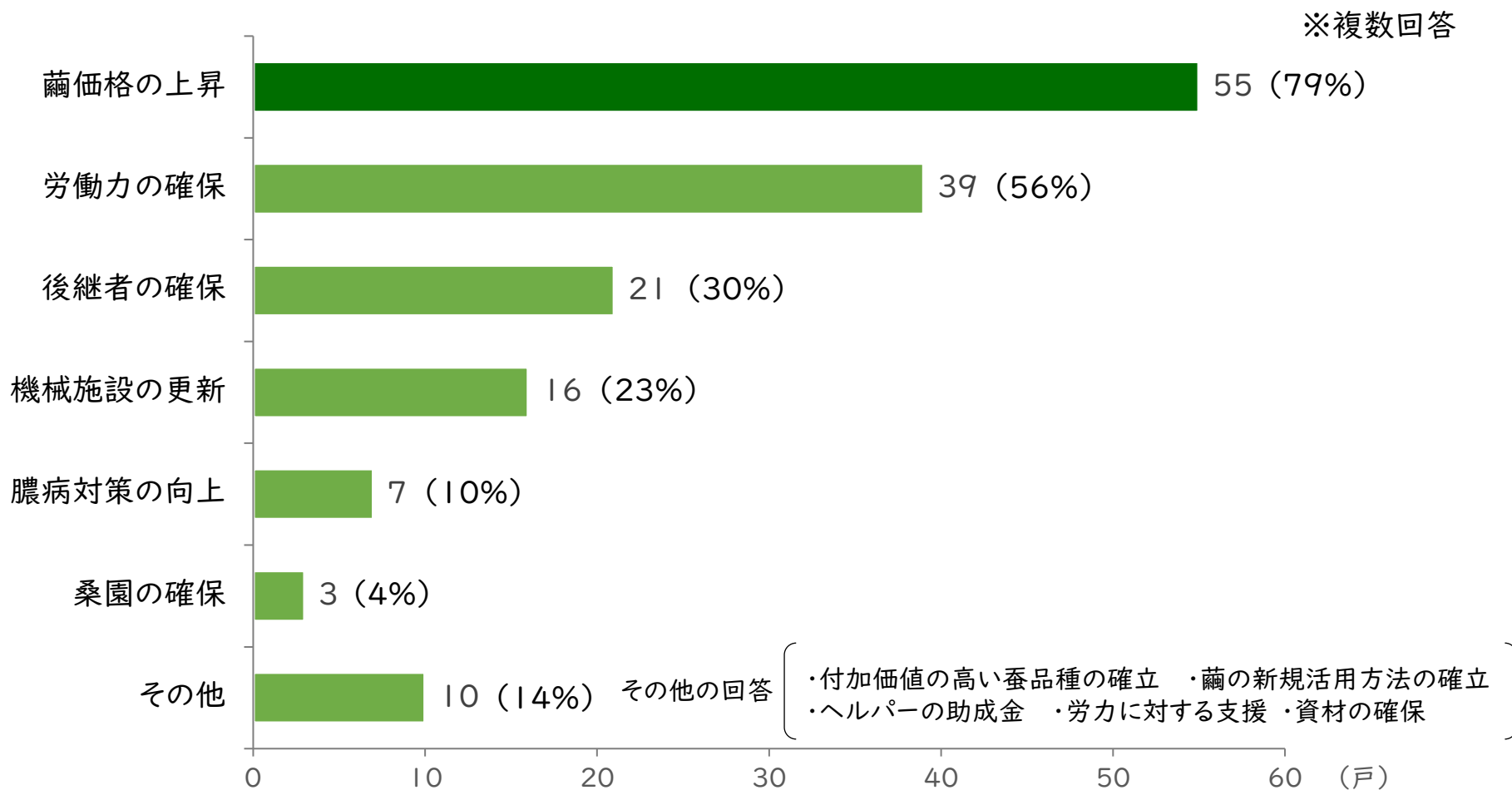
総労働時間	163.06
直接労働時間	162.32
栽桑作業	26.73
養蚕作業	134.21
生産管理	1.38
間接労働時間	0.74

【出展】農林水産省平成9年産繭生産費調査 <3>

4. 養蚕を継続していく上での課題

〈養蚕農家調査(2024年11月実施)の結果より〉

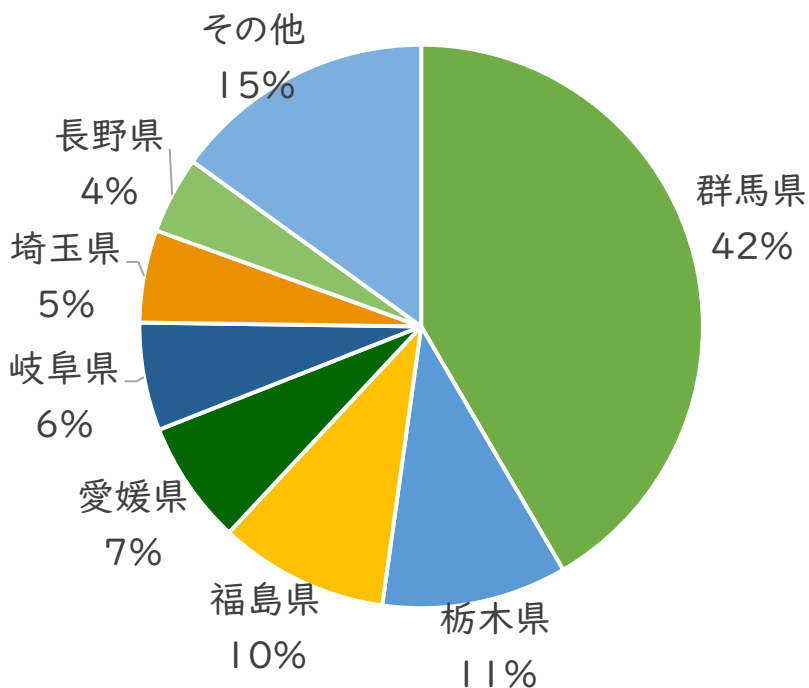
今後も養蚕を継続していく上での課題について質問したところ70戸から回答があり、79%が「繭価格の上昇」と回答。次いで「労働力の確保」が56%、「後継者の確保」が30%であった。



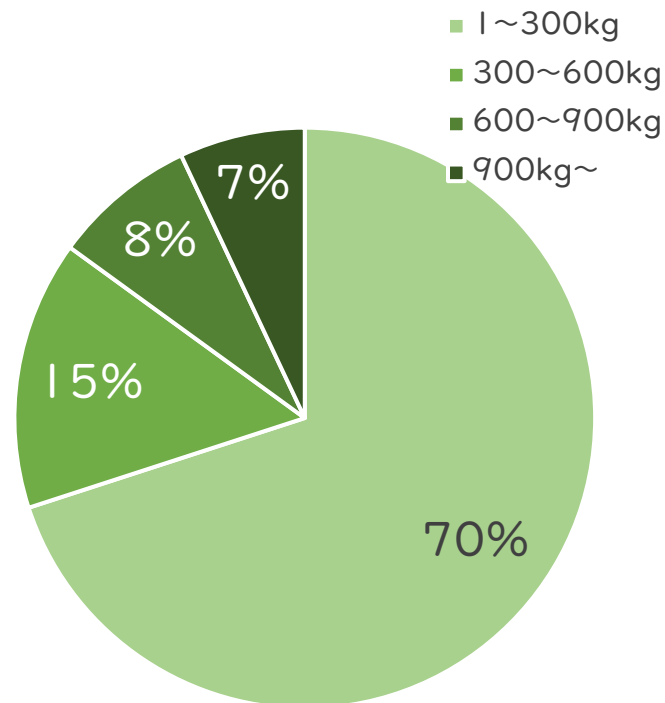
5. 養蚕農家の地域分布及び繭生産量区分別の農家等の割合

全養蚕農家の内、約4割が群馬県に所在。次いで栃木県、福島県、愛媛県の順に続く。生産量300kg未満の小規模農家等が全体の約7割(79戸)を占めている。

【養蚕農家の地域分布(2025年)】



【生産量区分別の農家等の戸数割合(2025年)】



	群馬県	栃木県	福島県	愛媛県	岐阜県	埼玉県	長野県	その他
養蚕農家数(戸)	47	12	11	8	7	6	5	17
割合(%)	(42)	(11)	(10)	(7)	(6)	(5)	(4)	(15)
繭生産量(kg)	13,231	5,922	5,409	2,051	470	1,446	319	2,306
割合(%)	(42)	(19)	(17)	(7)	(2)	(5)	(1)	(7)

【出展】(一財)大日本蚕糸会調べ

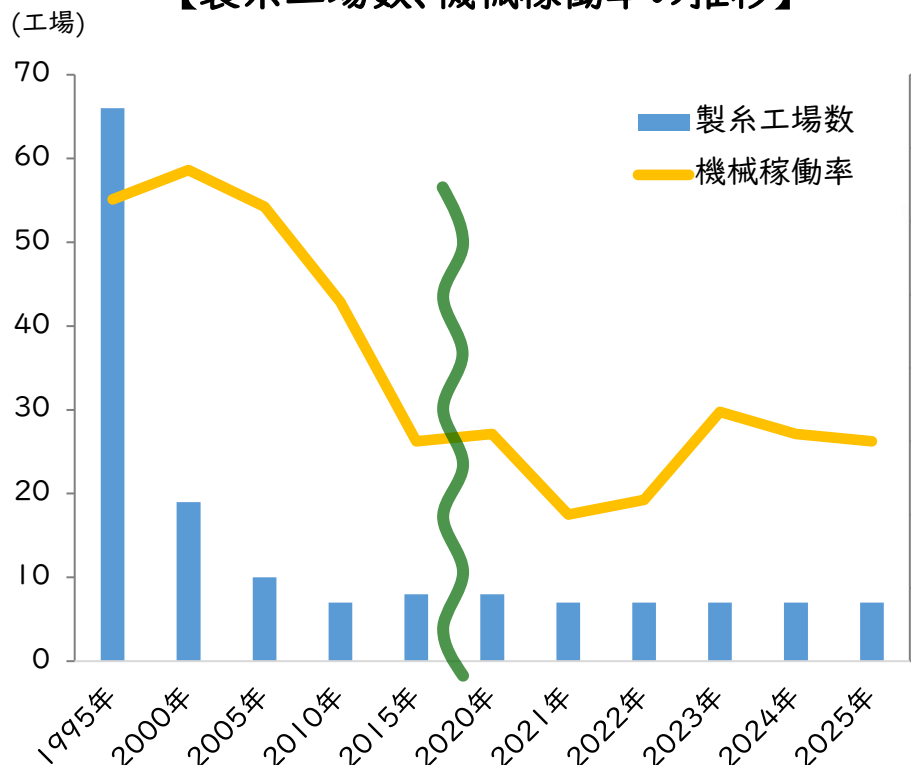
	1~300kg	300~600kg	600~900kg	900kg~
養蚕農家数(戸)	79	17	9	8
割合(%)	(70)	(15)	(8)	(7)
繭生産量(kg)	9,380	7,039	6,207	8,528
割合(%)	(30)	(23)	(20)	(27)

【出展】(一財)大日本蚕糸会調べ

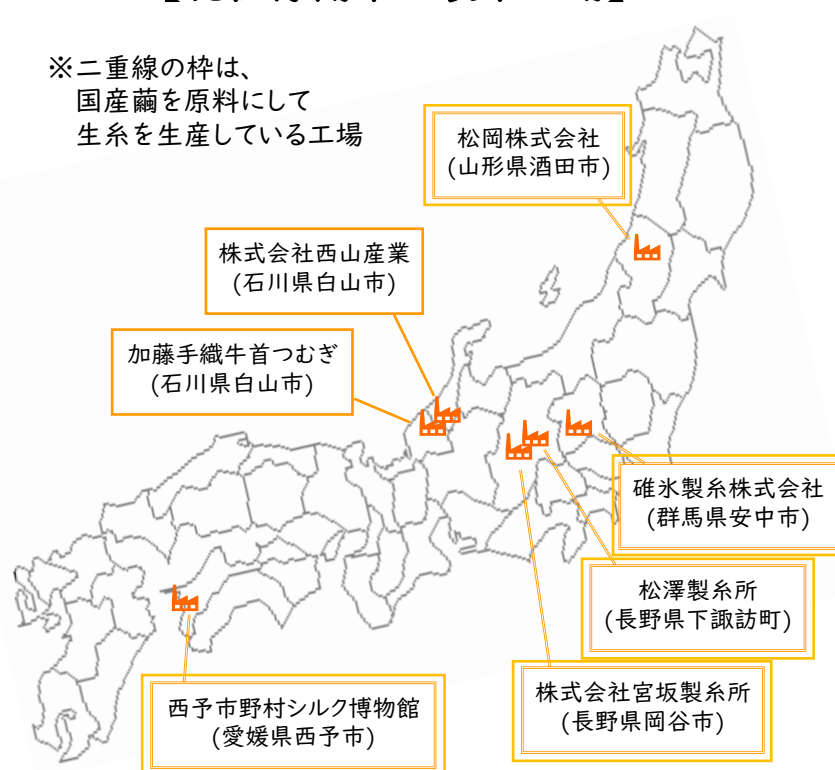
6. 製糸業の現状(1)

製糸工場は繭生産量の激減に伴う原料確保の困難化、生糸価格低迷による採算性の悪化等から撤退が続き、現在わずか7社（うち、国産生糸を生産しているのは5社）となるとともに、稼働率も低下している。

【製糸工場数、機械稼働率の推移】



【現在稼働中の製糸工場】



	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
製糸工場数(工場)	66	19	10	7	8	8	7	7	7	7	7
機械稼働率(%)	63	67	62	49	30	31	20	22	34	31	30

(注) 戦後の製糸工場数の最大値:288工場(1951年)

【出展】1995年、2000年、2005年は農林水産省調べ、
2010年、2015年は中央蚕糸協会調べ、2020年以降は大日本蚕糸会調べ

7. 製糸業の現状(2)

〈製糸事業者調査(2024年12月実施)の結果より〉

国産生糸を生産する製糸会社の経営状況は、繭生産量の減少に伴う稼働率の低下、輸入生糸との競争による国産生糸価格の低迷により全ての会社が赤字経営となっており、2023年の5社の単年度の合計赤字額は128,064千円。

平均的な製糸コストは15,099円/kgであり、生産コストに見合う繭価格〈4,400円/kg〉を養蚕農家に対して支払うと仮定して試算すると、生産コストを反映した合理的な生糸価格は39,299円/kg。

※製糸事業者調査(2024年12月実施)の概要：国産生糸を生産している5社を対象に、生産規模、製糸費用の内訳、生糸販売価格、製糸部門の収支等を調査。

【製糸会社の経営状況】(2023年)

5社の単年度の合計赤字額 128,064千円

(平均すると、生糸を1kg売る度に

15,681円の赤字となっている状況)

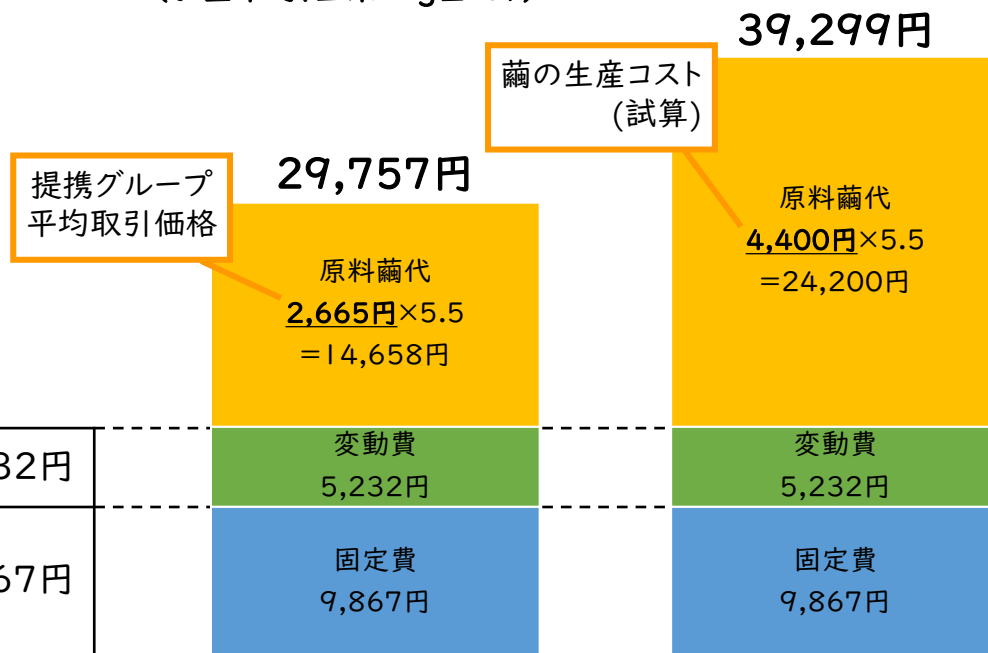
【平均的な製糸コスト】(2023年)

(加重平均、生糸1kg当たり)

変動費(水光熱費、消耗品費、修繕費等)	5,232円
固定費(人件費、減価償却費、保険料等)	9,867円
製糸の製造費用合計(原料繭代除く)	15,099円

【生産コストを反映した生糸価格(試算)】(2024年)

(加重平均、生糸1kg当たり)



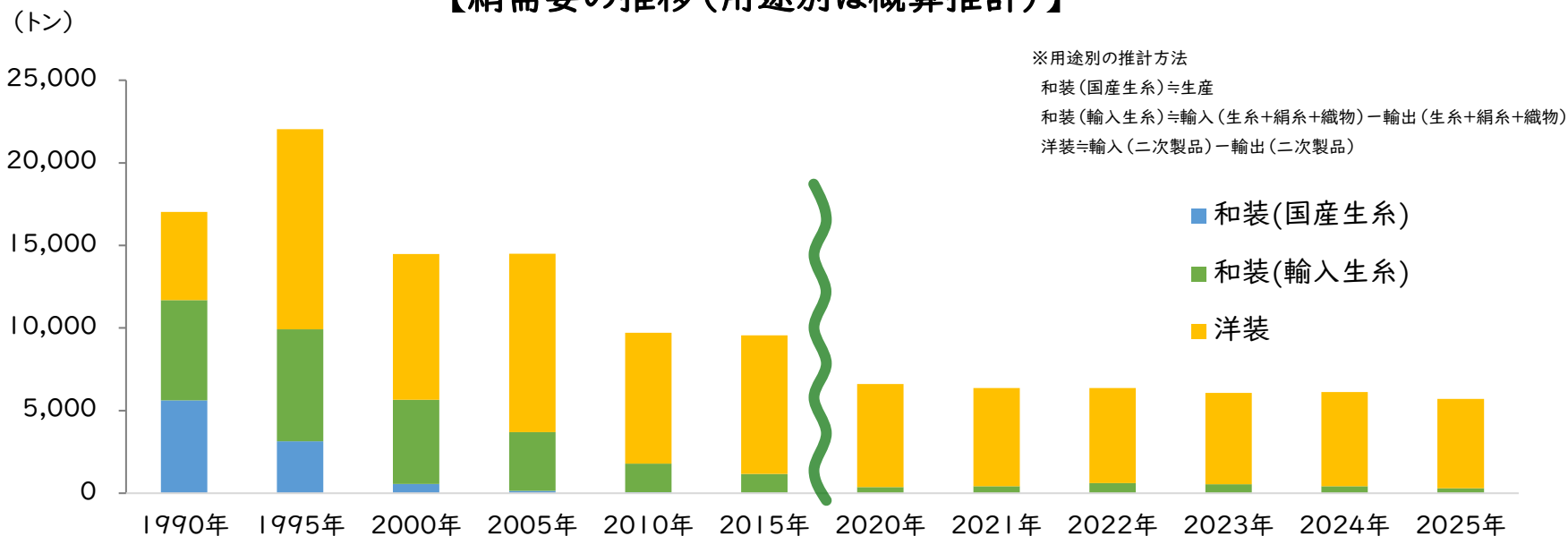
※生糸1kg当たり上繭約5.5kg使用と仮定

8. 国内の絹需要の推移

1995年以降、主として和装需要の減少により、国内の絹需要は1/3以下に減少したが、近年はほぼ横ばい。直近では、絹需要に占める和装需要のシェアは1割以下。

また、国内の絹需要に占める国産生系のシェアは1990年に34%であったものが、2025年には0.14%にまで低下。

【絹需要の推移（用途別は概算推計）】

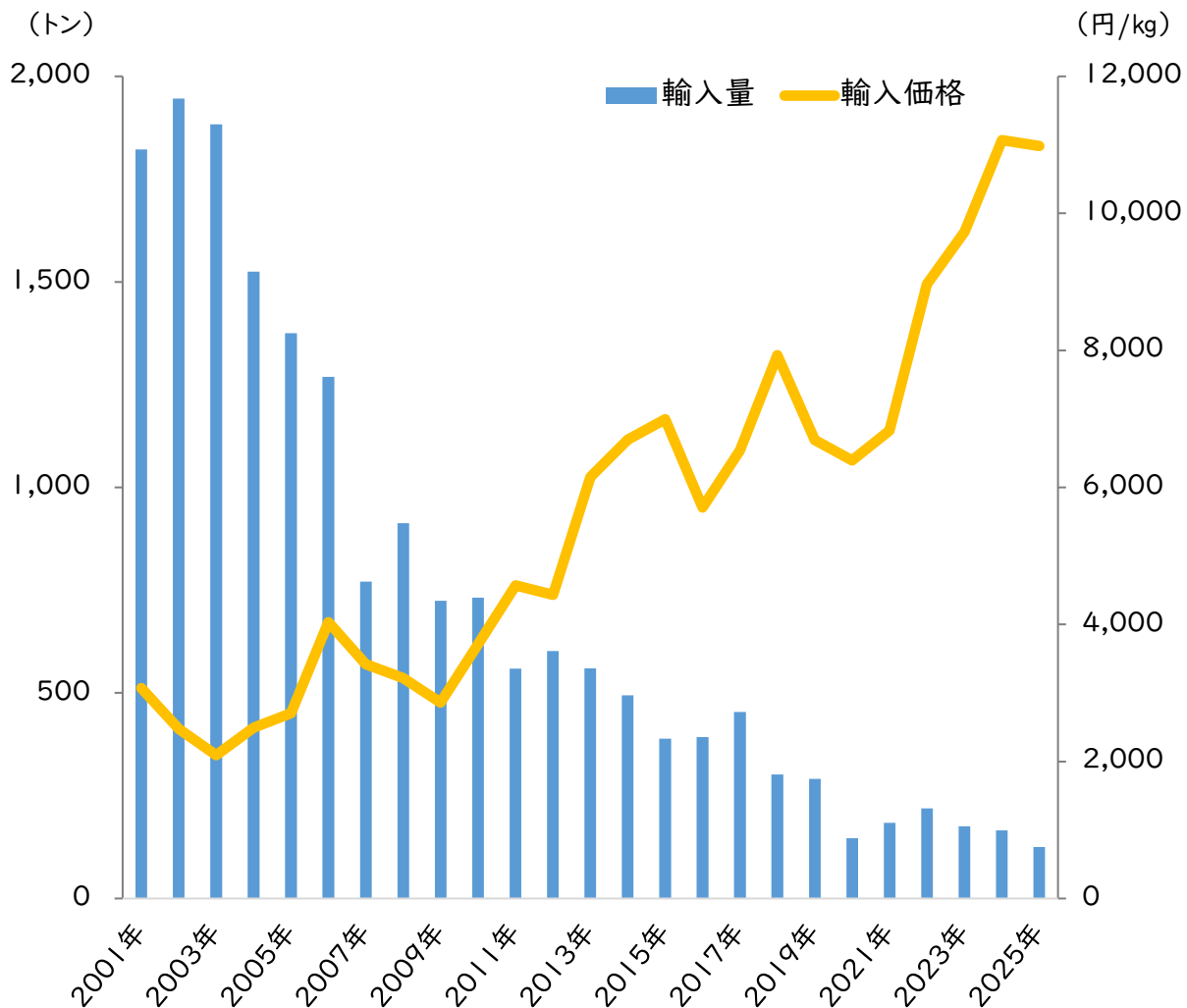


	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
和装(国産生系)(トン)	5,622	3,146	559	150	53	23	12	10	10	9	8	8
和装(輸入生系)(トン)	6,060	6,780	5,100	3,540	1,740	1,140	360	420	600	540	420	300
洋装(トン)	5,340	12,120	8,820	10,800	7,920	8,400	6,240	5,930	5,760	5,520	5,700	5,400
国内需要計(トン) [A]	16,620	21,960	14,820	14,580	9,960	9,563	6,612	6,359	6,360	6,060	6,120	5,700
国内生系生産量(トン) [B]	5,622	3,146	559	150	53	23	12	10	10	9	8	8
国内生系のシェア(%) [B/A]	33.83	14.32	3.77	1.03	0.53	0.24	0.18	0.15	0.16	0.15	0.13	0.14

9. 生糸輸入量及び輸入価格の推移

2001年以降、主要輸入先である中国における労賃の上昇、為替の影響等から、生糸の輸入価格は3~4倍に上昇。これに伴い、生糸輸入量は1/10以下に減少。

【生糸輸入量・輸入価格の推移】



	輸入量 (トン)	指数 (2001年 =100)	輸入価格 (円/kg)	指数 (2001年 =100)
2001年	1,822	(100)	3,069	(100)
2002年	1,946	(107)	2,474	(81)
2003年	1,883	(103)	2,092	(68)
2004年	1,525	(84)	2,492	(81)
2005年	1,375	(75)	2,706	(88)
2006年	1,269	(70)	4,032	(131)
2007年	771	(42)	3,420	(111)
2008年	913	(50)	3,217	(105)
2009年	724	(40)	2,859	(93)
2010年	732	(40)	3,709	(121)
2011年	559	(31)	4,569	(149)
2012年	602	(33)	4,432	(144)
2013年	560	(31)	6,153	(200)
2014年	494	(27)	6,696	(218)
2015年	389	(21)	6,996	(228)
2016年	393	(22)	5,709	(186)
2017年	454	(25)	6,539	(213)
2018年	302	(17)	7,930	(258)
2019年	291	(16)	6,694	(218)
2020年	147	(8)	6,395	(208)
2021年	184	(10)	6,828	(222)
2022年	219	(12)	8,968	(292)
2023年	176	(10)	9,733	(317)
2024年	166	(9)	11,069	(361)
2025年	125	(7)	10,983	(358)

10. 純国産絹マークの活用状況

純国産の絹製品を差別化するため2008年に「純国産絹マーク」制度を導入。
制度発足当初は、国産繭の40%が純国産絹マーク製品に使用されていたが、近年は純国産絹マーク制度の活用が低調となり、使用割合は低下。

【純国産絹マークの活用状況】

年度	申請件数	申請品目数	繭生産量 (kg) [A]	純国産絹マーク製品の 年度別繭使用量 (kg) [B]	割合 (%) [B/A]
2008年	61	105	382,000	154,238	40
2009年	109	191	327,000	131,175	40
2010年	91	186	265,000	86,492	33
2011年	68	136	220,000	70,857	32
2012年	57	141	202,316	46,024	23
2013年	47	91	168,266	29,291	17
2014年	71	159	148,741	39,671	27
2015年	54	133	135,451	15,319	11
2016年	41	108	129,851	32,827	25
2017年	44	101	125,192	31,127	25
2018年	30	87	110,107	22,031	20
2019年	31	57	92,340	14,467	16
2020年	20	39	79,710	6,440	8
2021年	22	39	61,264	7,598	12
2022年	22	42	51,226	5,762	11
2023年	18	41	44,661	9,701	22
2024年	22	35	38,473	3,163	8
2025年	31	56	31,154	536	2

【純国産絹マーク】



＜生産履歴の記入例＞

製品名 ○○○
繭生産 ○○県○○○
製糸 ○○○
製織 (株)○○
染色・加工 (株)○○

表示者登録番号 000

表示者名

2025年4月より、新たに国産の絹系（生系を含む）を純国産絹マークの対象に追加。